

石見海域漁場環境保全調査

(漁場環境保全対策推進調査事業)

井岡 久・石原成嗣・開内 洋

1. 研究目的

工場やし尿処理施設などの排水により、漁場環境の悪化が予想される水域について、その現状を把握し、資料の蓄積を図る。

2. 研究方法

(1) 調査地点及び水層

益田地先15点の1・10m及び底層。

(2) 調査項目

水温、透明度、濁度、浮遊物質(SS)、pH、溶存酸素(DO)、COD、栄養塩類

(3) 調査日時

平成15年11月14日

3. 研究結果

水層 (m)	区分	水温 ()	塩素量 (%)	浮遊物質 (ppm)	COD (ppm)	NH ₄ -N (μ g-at/ ℓ)	PO ₄ -P (μ g-at/ ℓ)	NO ₂ -N+NO ₃ -N (μ g-at/ ℓ)
1	最小値	19.4	12.742	6.5	0.38	0.00	0.00	0.00
	最大値	21.1	18.486	10.1	1.35	2.82	0.27	23.00
	平均値	20.6	17.589	8.6	0.73	1.37	0.06	4.23
10	最小値	20.1	18.016	4.3	0.26	0.00	0.00	0.00
	最大値	21.1	18.747	10.4	1.84	3.10	0.68	5.00
	平均値	20.8	18.464	8.6	0.74	1.59	0.11	2.13
底	最小値	19.9	18.330	2.5	0.21	0.00	0.00	0.00
	最大値	21.2	18.660	10.5	1.54	2.39	0.86	5.63
	平均値	20.7	18.517	8.6	0.66	1.21	0.12	2.12

4. 研究成果

- CODは0.21~1.84ppmであり、近年の調査結果と比較しても大きな変化は無かった。
- 栄養塩類量の値にも大きな変動は無かった。
- 総合的に、調査地点の水質に重大な変化は生じていないことを確認した。